

AIは医療をどう変える？

—和歌山の医療現場を安全に、 便利にするITのはなし—

ChatGPTをはじめとする生成AIは、文章づくりや調べもののやり方を大きく変えつつあり、医療の現場でも、診療録（カルテ）の作成支援や患者さんへの説明文書の下書きなど、活用の場面が急速に広がっています。一方で、AIがもっともらしい誤った情報を答えてしまうことや、入力した患者さんの情報が外部に漏れる心配など、医療で使う際に気をつけたい点もあります。本講演では、生成AIとはどのようなものか、何が得意で何が苦手なのかを、AIになじみのない方にもわかりやすくお話しします。その上で、スマートグラスを用いて医療現場の安全を高める研究や、AI問診による患者さんと医療者のコミュニケーション支援など、講演者がこれまで取り組んできた研究を例に、和歌山の医療の現場がITでどう安全に、便利になるのか、そして生成AIとどう付き合っていけばよいのかを、皆様とともに考えます。

と き 2026年

11月14日(土) 午後4時～6時

参加費無料
事前申込不要
(会場に直接
お越しください)

ところ

プラザホープ (和歌山市北出島1-5-47)
電話073-425-3335

講 師

よしの たかし
吉野 孝先生

和歌山大学システム工学部 教授（情報学領域）・学長補佐・
データ・インテリジェンス教育研究センター長 博士（情報科学）

<プロフィール>

鹿児島大学工学部電気工学科卒業。同大学院工学研究科電気工学専攻修了。2001年東北大学より博士（情報科学）の学位を取得。1995年鹿児島大学工学部助手、2001年和歌山大学システム工学部助手、2004年同学部助教授を経て、2013年より同学部教授。現在、学長補佐、社会インフォマティクス学環教授、データ・インテリジェンス教育研究センター長を兼務。専門はCSCW（コンピュータ支援協調作業）、グループウェア、ヒューマンコンピュータインタラクション。人と人とのコミュニケーション支援システム、防災情報共有システム、データ分析・利活用システムなどの研究開発に従事。医療分野では、外国人患者のための多言語医療対話支援システム、在宅医療連携のための多職種医療従事者間の患者情報共有システム、スマートグラスを用いた医療安全向上支援、AIを用いた問診データ分析など、医療現場をITで支える研究に長年取り組む。情報処理学会、電子情報通信学会、日本医療情報学会、ヒューマンインタフェース学会、人工知能学会、日本災害情報学会、IEEE-CS、ACM各会員。

